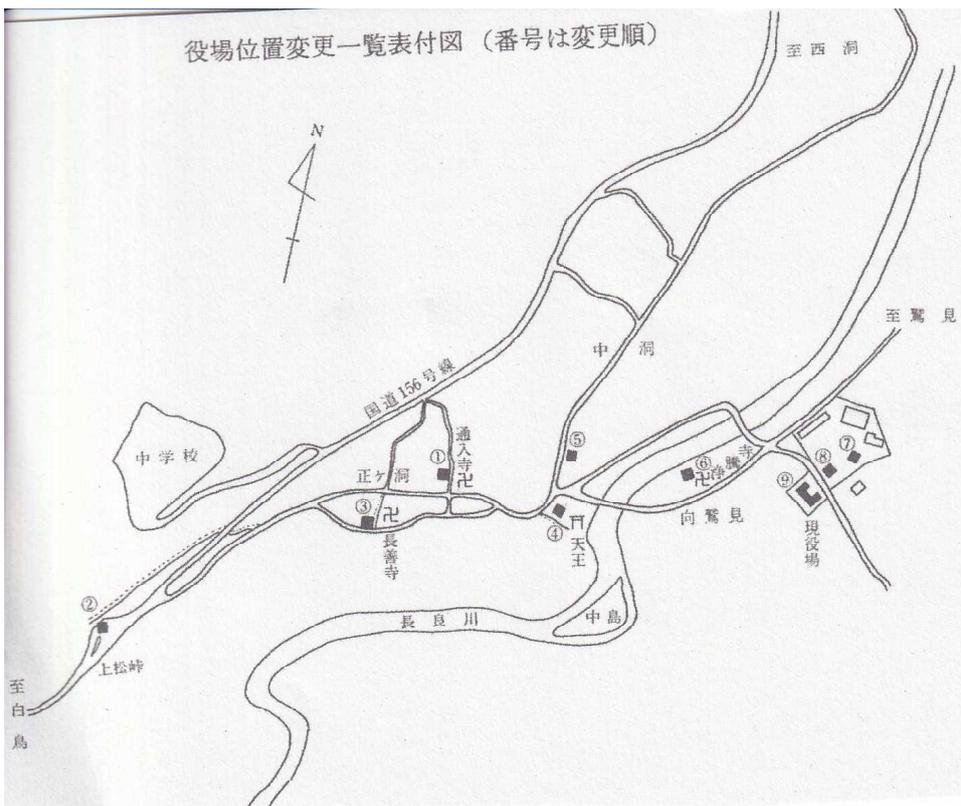
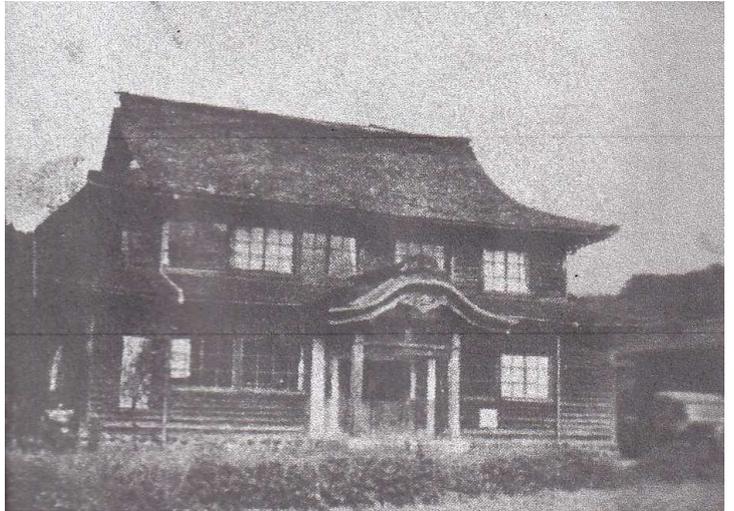


## 鷲見郷八ヶ村の現代史

高鷲村史によれば、鮎走、切立、正ヶ洞、向鷲見、中切、穴洞、鷲見を号して大化の改新以降「鷲見郷八ヶ村」というようになり、それが明治の中頃まで続いたそうである。では明治以降の鷲見郷はどのようになったか。

明治4年に廃藩置県により鷲見八ヶ村は郡上県の管轄となり、明治17年に四ヶ村が合併し大鷲外三ヶ村組合役場が成立し、役場を大鷲村往明寺に置くことになった。明治19年には役場を正ヶ洞長善寺に移した。明治21年には新たに町村制が發布され、明治30年には改正町村制が実施され、大鷲村、鮎立村、鷲見村、西洞村を合併し、その時の組合村長の下田十郎右衛門は新村名について、正会新田開発の「富田の里」にちなんで富田村とする案もあったが、結局鎌倉時代からゆかりの深い、『鷲見郷』の鷲をとり、郡中でも位置が高いところにあるから高鷲村と命名した。

明治25年には正ヶ洞大矢惣左衛門宅を役場①としたが、明治32年に下田平二村長代理は役場を正ヶ洞植松②に置く。翌33年には正ヶ洞井下の民家を借り上げ③、翌34年には役場を正ヶ洞の上村弥平宅に移す。同38年村長の野村丈太郎は役場を正ヶ洞茶屋ヶ端場に役場庁舎新築④する。大正4年には杉山井一郎氏が村長に選任され、大正9年10月16日に向鷲見地区に役場庁舎を新築落成⑦(写真)させた。昭和24年高鷲中学校敷地拡張のため、上ヶ島増雄村長の時50m移転する。その時、大正9年建築部分を売却し、現在白鳥町中西の寺院として再建されている。



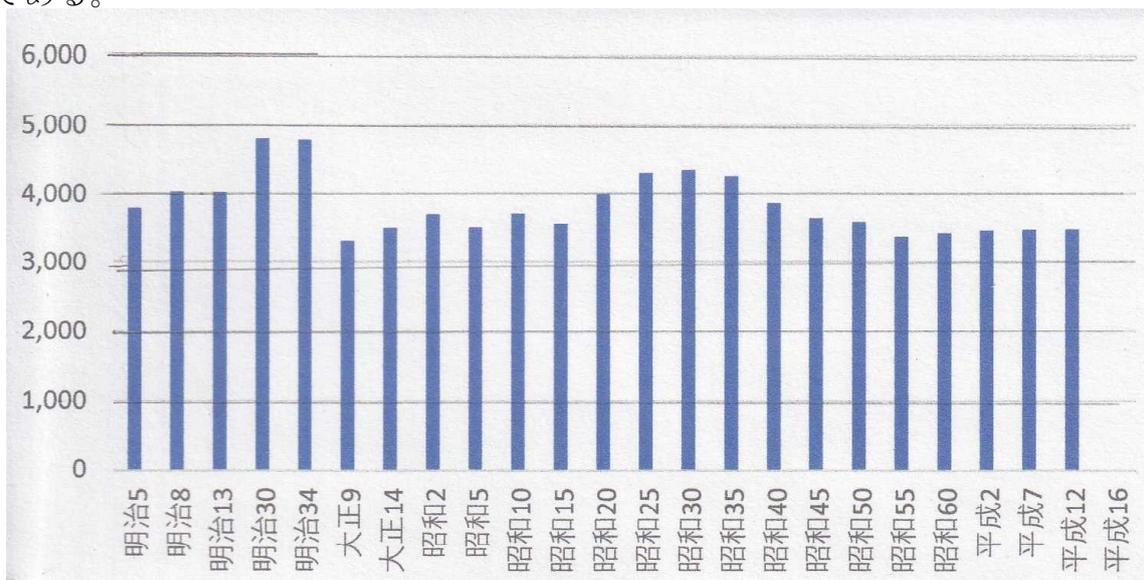
昭和 34 年の伊勢湾台風以来急速に、事務量が  
増し、職員も増加したため、毎年のように  
増改築を行い、なお手狭で会議も行う場所も  
少なく、改築のため壁など取り除いたので、  
危険が増し、会場で選挙の開票時等には人員  
の制限を行った。このように旧役場庁舎では  
時代に即応できなくなり、また、高鷲小学校  
運動場の拡張にも迫られていたので昭和 47 年  
12 月現在の大鷲 2349 番地の 1 に新築移転し  
た(右写真)。

平成 16 年 3 月 1 日郡上市誕生により、高鷲  
村役場庁舎は郡上市役所高鷲町庁舎となった。



## 鷲見郷の人口増加史

鷲見郷の人口は、明治の壬申戸籍以前は定かでないが、筆者が郷帳から類推した人口は江戸時代においては約 1200 人程度であったであろう。しかし、1868(明治元)年に明治維新が行われ、明治 5 年に壬申戸籍が制定されると、今まで各村の寺院の宗門改めによる人別帳からしか人口調査することが出来なかった。壬申戸籍(じんしんこせき)は、明治 4 年(1871 年)の戸籍法に基づいて、明治 5 年(1872 年)に編製された戸籍である。編製年の干支「壬申」から「壬申戸籍」と通称される。その後の国勢調査等を元に作成したグラフが下記である。



鷲見郷人口推移表(馬淵作成)

この表によると明治時代には、鷲見郷の人口が約 4000 人以上であり、人口が急増した為北海道移住が行われた。大正から昭和 20 年の終戦までは国策により満州移民が鷲見郷でも行われたが、20 年以降は開拓移住者が増加し、さらに三白産業が軌道にのった。しかし、郡上全体が都市への進学や就職で人口が減少し、高鷲も時代と共に高齢化が進み、人口は減少しているが、近年はその減少が停滞するのではなく増加傾向にある。平成 16 年に郡上 7 か町村が合併して郡上市となったため、鷲見郷の人口統計は発表されていない。

10月12日(土)午後2時から高鷲文化財保護協会の文化財講演会  
が行われます。

講師は長滝白山神社宮司の若宮多聞先生です。

演題は『武家と宗教文化』です。

場所は高鷲町民センター大ホールです。

多くの参加をお待ちしています。